



日耳鼻医会

FAXニュース

平成26年5月9日発行 第214号

※「中四国フォーラムin倉敷」ご案内※
第39回臨床家フォーラム「中四国フォーラムin倉敷」を下記の通り開催致しますのでお知らせ致します。

日時：平成26年9月14日(日)～15日(月)

会場：倉敷芸文館(講演会)倉敷アイビースクエア(懇親会)

一日目

※「小児急性中耳炎の診断・治療 up to date」(仮題)

※「耳鼻咽喉科領域における漢方治療」

※「嚙下内視鏡検査の実際」(仮題)など

※職員対象「聴力検査講習会」

二日目

※「小児難聴」 ※「黄砂・PM2.5の健康影響」など

■専門医の質 向上へ 統一基準で認定

「専門医」を統一的な基準で認定する第三者機関、日本専門医機構が5月7日発足した。学会ごとに独自基準で認定している現状を改め、専門医の乱立状態や技量・質のばらつきの改善が狙い。今後新しい認定基準や研修プログラムを作り、2017年度に専門医研修を開始、2020年度から認定を始める予定。

新たな専門医の基本分野となる19種類は耳鼻咽喉科はじめ次の計19種類。総合内科・小児科・皮膚科・泌尿器科・精神科・外科・整形外科・脳神経外科・産婦人科・眼科・放射線科・麻酔科・病理・臨床検査・救急科・形成外科・リハビリテーション・総合診療。(日経新聞5月8日)

■差支えある場合除き、処方せん『変更不可』チェックしないよう要請

厚労省は3月31日に、「処方せんの『変更不可』欄の取扱い等」に関する事務連絡を行った

後発医薬品の使用を促進するため、銘柄別に処方された場合には、医師が処方せんの「(後発品への)変更不可」欄にチェックを入れない限り、薬局において後発品に

変更することが可能とされている。

この点に関連し、総務省は、後発品への変更をしても支障のない場合にも「変更不可」欄へのチェックがなされていると問題視。平成25年3月には、(a)差支えのある場合を除き、後発品への変更不可を認めない(原則、変更可とする)(b)患者が後発品選択をしやすくするための対応を医療機関に求める(c)市町村別の後発品シェアを把握・公表する(d)後発品の規格揃えについて見直しを検討する一ことを厚労省に求めている(医薬品等の普及・安全に関する行政評価・監視結果に基づく勧告)。

この勧告のとくに(a)(b)を踏まえ、厚労省は今般、保険医療機関に対し「後発品への変更」に差支えがあると判断した場合のみ、処方せんの『変更不可』欄にチェックを入れるよう強く求めている。

(WIC REPORT提供:厚生政策情報センター04/08)

■大病院初診「1万円」案も 入院食費の負担増検討

医療制度改革で厚労省 厚労省は4月11日、入院患者が医療機関に支払う食費の自己負担額(1食当たり原則260円)を大幅に引き上げる方向で検討に入った。全額自費の在宅患者との公平性を図る狙いがある。社会保障審議会の部会を月内にも開き、公的医療保険全体の制度改革に向け、具体的な議論を進める。

混雑しがちな大病院の外来についても、軽症患者の受診抑制を促す。紹介状がない場合、初診時に通常の窓口負担とは別に一定額の支払いを求める方向だ。政府の社会保障制度改革国民会議の議論では、1万円を徴収する案が出ていた。全国一律に高額の特例料金を導入することで、医療の緊急性が低い患者の来院を遠慮してもらう考えだ。このほか、医師や月収約120万円以上の会社員など、高所得者の保険料引き上げも検討する。厚労省は年内に制度改革案をまとめ、来年の通常国会への関連法案提出を目指す。(共同通信社4月14日(月) 配信)

■世界初の中耳粘膜再生、慈恵医大

3月中旬に第1症例を実施、医師主導の臨床研究

慈恵会医科大学の小島博己教授(耳科学)らの研究グループが3月中旬に中耳粘膜を再生する治療の第1症例を実施していたことが15日わかった。東京女子医科大学の岡野光夫特任教授が開発した細胞シート技術を用いた医師主導の臨床研究で、難治性中耳炎の再発を防ぎ、難聴を回復させることを目指している。患者の細胞を採ってシートを作り、耳に移植する再生医療は世界初という。対

象は「真珠腫性中耳炎」と、「癒着性中耳炎」患者。

同研究グループは、鼻の粘膜細胞が耳の粘膜細胞に特性が近いことに着目。手術で取り除いた粘膜の代わりに、患者の鼻粘膜細胞を培養して作った鼻粘膜上皮細胞シートを貼り付けて、再生を促すことを目指している。

今回の臨床研究は昨年2月に慈恵医大の学内倫理審査委員会で実施が承認され、昨年7月には厚労省のヒト幹細胞臨床研究審査委員会からも実施許可を得ていた。

難治性中耳炎の一つである真珠腫性中耳炎は、国内で毎年約6000人が発症する。そのうち細胞シート治療の対象となる重症患者は年間1200人に上ると推計されている。(4月16日 化学工業日報)

■市販ベビーフードで誤嚥し肺炎

日本小児科学会子どもの生活環境改善委員会は3月26日、10カ月の男児が市販のベビーフードに含まれる大豆を誤嚥し、化学性肺炎を来たした事例を紹介し、「今後も同様の事故が起きる可能性がある」と注意を促した。当該のベビーフードには「9カ月頃から、歯ぐきでつぶせる固さ」と記されていたが、誤嚥に関する注意書きはなかったという。委員会は「同様の事例を収集し食材の大きさや固さについて検討する必要がある」と述べている。学会ホームページの「Injury Alert(傷害速報)」で詳細を読むことができる。(4月16日 m3.com 臨床ニュース)

astellas

経口用セフェム系製剤
日本薬局方 セフジニルカプセル、セフジニル細粒

【薬価標準収載】
◎細粒小児用10%
50mg
カプセル 100mg
Cefzon®

【効能・効果】「用法・用量」「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 アステラス製薬株式会社
東京都港区東新橋2-1-1
[支店] 本社/東京都中央区日本橋本町2-5-1
2013年4月作成 89×127mm

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp
当会への要望・意見・相談をお寄せ下さい